

Since 1976

横浜市立元石川小学校

令和2年8月31日



# 学校だより

## 9月号

Email [y3motois@edu.city.yokohama.jp](mailto:y3motois@edu.city.yokohama.jp)

HP <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/motoishikawa/>

横浜市青葉区美しが丘4-31-1

TEL 045(902)1821

## 見られています

校長 鈴木 彰

早いもので、今年度がもう半分過ぎようとしています。休校期間があったり、社会全体の様々な対応に追われたりしていたこともあり、私としては あっという間の印象です。それでも、子どもたちがまた学校に通い始めてくれたことで、幸せな毎日になっています。

最近、こんなことを思っています。

### 「今ほど、大人の行いを子どもたちに見られていることはない」

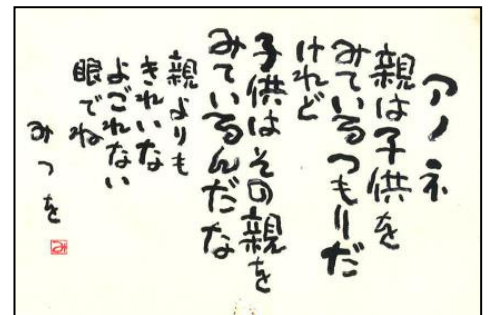
この混乱の中で大人たちがどのように壁を乗り越えていくか、どんな判断をするかを子どもたちは、じっと見えています。そして、その大人の後を黙って子どもたちはついてきています。

職員室の私の机の上に1枚のカードが載っています。何度も転勤していますが、クラス担任をしていたときからずっと置き続けていますから、もう10年を超えるでしょう。

学校では教師ですが、私も家に帰れば一人のお父さん。子育てにずっと悩みました。

子どもが望む生き方を支えてあげているかな。子どもの望みを優先しすぎていないかな。「子どもの将来のために」と言いながら親の方針を押しつけていないかな。

やはり、悩みは尽きません。



何年前に「命」をテーマに子どもたちに向けた講演会をお願いした助産師さんから聞いた言葉が心に響き、メモに残してあります。

乳児期はしっかりと肌を離すな。

幼児期は肌を離せ、手を離すな。

学童期は手を離せ、目を離すな。

思春期は目を離せ、心を離すな。

助産師さんが考えた言葉かどうかは分かりませんが、でも、親として毅然としています。「ああ、そのとおりだなあ。」「そんな親でありたいなあ。」「分かっちゃいるけど、なかなかできないなあ。」また悩みが始まります。

こんなときだからこそ、大人として揺るがない姿を子どもたちに見せたい。

こんなときだからこそ、揺るがず子どもを育てたい。

最近、こんなことを思っているのです。